

2026年3月5日

報道各位

津田塾大学
住友林業株式会社

木造平屋建て 津田塾大学「ウェルネス館」竣工 ～学生の心身の健康と脱炭素に貢献～

津田塾大学(所在地:東京都小平市、学長:高橋 裕子)と住友林業株式会社(本社:東京都千代田区、社長:光吉 敏郎 以下、住友林業)は3月5日(木)、津田塾大学小平キャンパスに新設した「ウェルネス館」の竣工式を実施しました。本施設は木造平屋建てで住友林業が設計・施工を担当。構造材や内装材に木を多く使用し学生の心身の健康と自己成長を促すだけでなく、木材が炭素を長期間固定するため脱炭素にも寄与します。利用開始は2026年3月下旬予定です。



■建物の特長

① 環境に配慮した脱炭素設計

- ・ 構造材、内装材、アートワーク等を含む総木材使用量は約127m³、炭素固定量は約103トンCO₂e bio^{*1}で建物のライフサイクルCO₂排出量を可視化する「One Click LCA」で算出しました。木造建築は鉄骨(S)造やRC造に比べ「建てる時のCO₂排出量(エンボディドカーボン)」を削減できます。さらに木は吸収したCO₂を炭素として内部に貯蔵するため、炭素を長期間固定し続け脱炭素化に貢献します。

② 利用者のウェルネスを実現する空間デザインと多様な施設

- ・ 木が心身に与える癒しの効果に着目し、エントランスホールや多目的室、事務室、医務室は柱梁の一部を現し^{*2}としています。壁面や床、天井、什器などの内装にも積極的に木目のデザインを取り入れました。住友林業筑波研究所の研究で、木や木質空間には木目や香りによるリラックス効果があり、不安やイライラなどを軽減する効果があることが分かっています。
- ・ さまざまな思いや背景をもつ学生の心身の健康を支え、気軽に立ち寄れる空間を目指し、動線とゾーニングに配慮しました。エントランスホールを中心に、ウェルネス・センターとしての機能(医務室、相談室、休養室、メディテーションルーム等)と研修や公開講座などに利用できる多目的室を左右に配置しました。用途に応じて空間の性質を分けながらも「ひとつ屋根の下」でおおらかに全体がつながる構

成は、平屋建ての魅力を活かした設計です。施設内にはこころ静かに過ごすためのメディテーションルームや、誰もが安心して使えるオールジェンダートイレも設置しました。



エントランスホール



多目的室(村井記念ルーム)

③ 景観と調和する木造平屋建ての校舎

- ・ 本施設は津田塾大学の「小平キャンパスマスタープラン」に基づく施設の一つです。緑豊かなキャンパスや隣接する玉川上水の景観に溶け込むよう木造平屋建てにしました。開口部は全て森に面して視線が抜けるようにし、利用者に自然とのつながりや安らぎの感覚をもたらします。
- ・ キャンパスで長年風景の一部として親しまれてきた樹木を活用し、学生とのワークショップを開催。唯一無二のアートワークやベンチに造り替えウェルネス館で使用します。津田塾大学に関わる様々な人の思いを形に変えて新たな施設に継承しました。
- ・ エントランスの庇部分は CLT（直交集成板）を現しで使用。燃えしろ設計^{※3}で耐火性を確保しつつ木の美しさも際立つ外観が特徴です。



■津田塾大学 高橋 裕子学長 コメント

主体的により良く生きることを目指したウェルネス教育は、津田塾大学が大切にしてきた伝統です。2026年3月、「ウェルネス」を冠した建物が、津田梅子記念交流館に隣接したエリアに竣工します。木のぬくもりが感じられるウェルネス館は、憩いや癒しをもたらす、学生や教職員の心身の健康をいっそう増進する拠点となるでしょう。ここに集う皆さんのウェルネスの礎となることに大きな期待を寄せています。

■3月5日 竣工式を開催

竣工式は大学や企業関係者約50名が出席し、定礎式、竣工式、ウェルネス館の見学会などが実施されました。自然光と木の香りが満ちる空間の中で、ウェルネス館の完成を祝う温かな式典となりました。



定礎式にて 写真左より、津田塾大学 高橋裕子学長、住友林業 建築事業部 今井邦雄部長

■物件概要

工事名称	: 津田塾大学 小平キャンパスウェルネス館新築工事
所在地	: 東京都小平市津田町 2-1-1
用途	: 大学(保健管理施設)
敷地面積	: 約 76543.22 m ²
延床面積	: 460.17 m ² (139.2 坪)
構造・階数	: 木造平屋建て(在来軸組工法)、45分準耐火構造
高さ	: 約 7.3m (最高高さ)
着工	: 2025年9月8日
竣工	: 2026年3月5日
利用開始	: 2026年3月下旬(予定)
基本計画・設計監理監修	: 株式会社安井建築設計事務所
設計・施工	: 住友林業株式会社

■津田塾大学 概要

創立	: 1900年
所在地	: 東京都小平市津田町 2-1-1
学長	: 高橋 裕子
在学生数	: 3,352名(2025年5月1日現在)
施設	: 小平キャンパス、千駄ヶ谷キャンパス、学外セミナーハウス(軽井沢・西国分寺)

津田塾大学は津田梅子により1900年に創立され、女子高等教育のパイオニアとして歩んできました。「変革を担う女性」の育成をミッションに掲げ、少人数教育とリベラルアーツを軸に、高い専門性と主体性を養う教育を実践しています。学芸学部(小平キャンパス)と総合政策学部(千駄ヶ谷キャンパス)の2学部を擁し、多角的な視点で社会に貢献する女性を輩出し続け、2025年に創立125周年を迎えました。その記念事業として、多くの寄付により「ウェルネス館」を建設するなど、次代を見据えた教育環境のさらなる充実を図っています。

住友林業グループは森林経営から木材建材の製造・流通、戸建住宅・中大規模木造建築の請負や不動産開発、木質バイオマス発電まで「木」を軸とした事業をグローバルに展開しています。2030年までの長期ビジョン「Mission TREEING 2030」では住友林業のバリューチェーン「ウッドサイクル」を回すことで、森林のCO2吸収量を増やし、木造建築の普及で炭素を長期にわたり固定し、社会全体の脱炭素に貢献することを目指しています。今後も非住宅建築分野での木造化・木質化を推進し、木の魅力を最大限に生かした付加価値の高い商品・サービスを提供していきます。

※1. 樹木が成長過程で吸収固定した炭素量を二酸化炭素に換算し表記する際の単位。炭素固定量は建物の一生涯にわたるCO2排出量(エンボディカーボン)を見える化するソフトウェア「OneClickLCA」をもとに試算。同ソフトは住友林業が日本単独代理店契約を結んでいる。
(参考: [One Click LCA サイトページ](#))

※2. 建物の構造材(柱、梁、庇など)を仕上材で覆わず、あえて見せる仕上げのこと

※3. 木材の火災時の炭化速度を基に、構造部材の“燃えて失われる部分(燃えしろ)”を考慮して断面寸法を設定する設計手法

《お問い合わせ先》

住友林業株式会社

コーポレート・コミュニケーション部 小山田

TEL: 03-3214-2270

学校法人津田塾大学

管理課

TEL: 042-342-5127